

## 第6回大阪府環境審議会環境総合計画部会

平成22年4月16日(金)

(午前10時 開会)

【司会(田中総括主査)】 おはようございます。

長らくお待たせをいたしました。若干まだお見えでない委員おられますけれども、定刻でございますので、只今から第6回大阪府環境審議会環境総合計画部会を開催させていただきます。

私は事務局を務めさせていただいております環境農林水産総務課の田中でございます。よろしく願いいたします。

委員の皆様方には足元のお悪い中、お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

なお、本日、濱田委員、横山委員におかれましては、所用によりご欠席ということで、事務局に事前にご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

まず、資料の確認をさせていただきます。お手元に、委員の皆様には事前に資料送付をさせていただいておりますが、議事次第、それからその裏面に配席表がございます。配席表につきましては事前に送付させていただきましたものに一部訂正がございましたので、机の上に改めまして配席表をお配りさせていただいております。それから、出席確認表をお配りしておりますので、お手数ですがご記入をよろしく願いいたします。また、事前にお送りしました報告(案)に加えまして、本日また新たに参考1、将来像に関する部会委員の意見という資料もお配りさせていただいております。以上、資料に足りないものはございませんでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、只今から議事に入らせていただきたいと思います。池田部会長、よろしく願いいたします。

【池田部会長】 皆さん、おはようございます。それでは、早速議事に入りたいと思います。

先回の第5回の部会では、環境基本条例に基づく環境総合計画についての素案をご検討いただいたわけですから、それで、いろんなご意見をいただいて、その素案を事務局で手直ししていただきまして、それぞれ委員の皆様のところを持ち回りをいたしまして、直したものが本日出ております報告(案)でございます。今日は皆様のご協力を得まして、この

報告書を取りまとめたいと思っておりますので、どうぞご協力のほどよろしく願いいたします。

それでは、事務局から修正のあった箇所につきまして、まずご説明をよろしく願いいたします。

【事務局（小林補佐）】 環境農林水産総務課の小林でございます。失礼ですけど、座って説明させていただきます。

前回の素案から修正をしております。今回、最終的には（案）ということでお手元にありますけれども、表紙でございますように、5月14日に予定しております環境審議会にこの部会の名前で報告を上げるということになりますが、最終的には「（案）」を取った形で報告を部会長からお願いするということになります。

それでは、1ページ目でございます。修正したところには薄く色がついて下線を引いております。ご指摘をいただいたように下のほうにあります、「平成21年5月に」ということで、時期を記入してございます。

次に、2ページ目でございます。中ほどの少し下に「家電リサイクル大阪方式」ということで下線を引いてございますが、この後にもいろいろ出てきますが、用語として説明を加えるものにつきましては、ここにございますように 印で数字をつけて後ろに用語集として今回まとめているということでございます。

修正箇所ですけれども、2ページ目に「環境保全目標」というところがございますが、これは達成、非達成について「環境保全目標」ということで整理をさせていただきまして、一番下にございます微小粒子状物質ですけれども、これについては今ちょうど整理をしておるところですので、ここはまだ「環境保全目標」としてきっちりと今検討しておるところでございますので、国において環境基準が設定されたということで、用語を正しく使ってください。

次に、3ページ目でございます。3行目、4行目に大阪湾の件につきましてCODが横ばいであることに加えて、夏場に海底近くの海水の酸素が減少する、いわゆる貧酸素状態になって魚介類に影響を与えるということもつけ加えました。

それから、中ほどぐらいにございますが、「関係者」というところがございます。その下のほうに2の「新たな計画策定に当たって基本となる視点」のところの3行目に「主体」というのがございまして、前回ご指摘いただきました、全て「主体」という言葉を使うのではなく、他の言葉のほうがいいのではないかとご指摘いただきました。部会長と

もちょっと相談をさせていただきまして、全てを「関係者」とするのはどうかということで、上の「関係者」というところはいわゆる活動に携わる人ということで、例示もしてございますが、そういうときには「関係者」、それから下にある「主体」のときはきちんとその「主体」が取り組みを進める主体性を発揮するということのときには「主体」という言葉を使わせていただきました。

それから、3ページ目の下のほうでございますが、「また」からです。「環境に放出された化学物質が大気、水質、土壌といった環境媒体のみならず、生物や食物にも残留すること」ということで、現状認識ではございますが、横山委員から「やっぱり食べ物のこともきちんと考慮すべきだ」ということで、ここの現状認識のところであらうに記事をさせていただきます。

それから、4ページ目、こちらのほうの最初の下線を引いておるところですけれども、「環境の価値を改めて認識した上で、人と自然が多様なつながりを通じて共存していける道筋を示していく必要がある」ということで、これもご指摘をいただいて追加しております。

それから、その2行下ですけれども、「二酸化炭素の排出を大幅に削減する必要がある」ということで、以前は排出抑制を徹底するということになっておったんですが、やはり今は大幅に削減ということが目標になるかなということであらうな記載をしております。

それから、4ページ目の下のほうです。「NPO・市民活動団体」というのは「府民が主役」というところの最初の行にございますが、これは前回いろいろご議論をいただきましてNPOの定義もNPO法人なのかどうかというのがよくわからないところもございますが、ここでは「市民活動団体」という言葉をつけ加えることによって、法人にはなっていないけれども積極的な活動をしておられる団体もたくさんございますので、文字にするとNPOというのはとかくNPO法人にとらえられやすいところがございますので、こういう形で書かせていただいて、「(以下単にNPOという。)」ということであらうにさせていただきます。

次に、5ページ目ですけれども、こちらのご指摘をいただいたところで、社会全体の価値感ということで変革していくということと、それから、行政が他の関係者と連携して環境教育を推進していくことを加えさせていただきます。

それから、その下に最後のところですが、「なお」ということで、この前もご議

論があったように、「府民」というものを大阪府に在住する人だけではなくて、通勤する人も例に挙げていますが、大阪府に関わる全ての人ということで書かせていただきました。

それから、次の6ページ目からの計画の枠組みのところは特に修正はなかったんですけども、8ページの計画の枠組みの図の中に短期目標なんですけれども、こちらを図の中に入れてはどうかというご指摘をいただきました。ただ、短期目標についてはすべての項目に短期目標を置くというよりは必要に応じて置くということにしておりますので、ここにごさいますように 印で、少し字は小そうございますが、「必要に応じて短期目標を設定」ということで記入をいたしました。

それから、9ページ目ですけれども、これはとりあえず今「持続可能で暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市」と入れてありますが、こちらについてはまた後でご議論をいただきたいなと思っております。

10ページ目でございます。一番上に「中期的目標」と書いてございます。これは以前は中期的目標と短期的目標ということで両方書いておったんですが、短期的な目標は全てに置くわけではないので、ちょっと誤解を生むかなということで、目標年次の中に「短期的な対応が求められる課題については、より短期の目標年次も設定すべきである」とありますので、追加的に短期的な目標を設定するというでタイトルは「中期的目標」とさせていただきます。

10ページ、11ページにも先ほどの「関係者」と「主体」ということの意味を少し整理をさせていただいています。

それから、12ページですけれども、こちらに「環境配慮行動への動機付け」というところで、「大阪人気質」というところをご指摘いただきましたので、「経済合理性を重視する」ということを加えました。それから、その下に「動機付け」と入っているのは、タイトルに「動機付け」と書いていますが、ここでいきなり「インセンティブ」と書いていますので、それを説明するために括弧で「(動機付け)」というのを入れさせていただきました。

それから、13ページでございますが、ここはちょっと語順を入れかえまして、「今後は」のところですけども、「新エネルギー、省エネルギー技術を最大限に活用した」というところで、「産業構造の転換」ということで示して、「エコカーの普及も図りながら」というのを上につけた上で、「公共交通機関を軸とし、エネルギー利用効率の高い低炭素型の都市構造に転換」ということで、産業構造の転換と都市構造の転換ということがきちん並列で

わかりやすく表現をさせていただきました。

それから、適切に何を組み合わせるのかということがございました。「国における施策の検討状況も踏まえ」というのも入れさせていただいて「政策手法を」ということで書いてございます。ちょっと具体的なものはなかなか書きにくかったものですから、こういう形で、国で今環境税であるとか排出量取引とかいろんなものが検討されてございますが、そういうものも踏まえて政策手法を府として「適切に組み合わせる」ということで書かせていただきました。

次に、15ページでございます。「健康・魅力」のところですが、こちらの最初のほうは少し、こちらで整理させていただいて、最初「条例」しか書いていなかったんですけども、「法と条例」ということとか、それから先ほどの微小粒子状物質が「新たに国により環境基準が設定された」というところを加えております。

それから、その下ですが、「化学物質の製造と使用に伴う影響の低減を図っていくことが求められる」とした上で、その下でございますが、「このため」というところの後に「生物、食物への環境汚染物質の影響」ということで先ほどもございました食べ物のことを少し書かせていただいて、さらにご指摘いただいたように、その下の「魅力」に関する部分のところ、「生き物のにぎわう自然環境」と、これもつけ加えさせていただきました。

それから、その下の「地域主権・広域連携」のところですが、琵琶湖・淀川流域の話をもう少し具体的にということで、人、自然、文化を水でつなぐ取り組みということで、取り組みの中身を少し書きました。それから、関西広域連合の話もつけ加えてございます。

それから次に、16ページでございますが、ここは少し語順を整理しまして「環境の施策は多岐にわたる分野におよぶ多面的な便益の創出があることから」ということで、費用対効果の中でそういうものがあるので、全ての把握はできないということを書いております。

以上、主な修正点はそういうところございまして、18ページ以降、用語解説で下線を引いておるものが今回つけ加えたものでございます。特に生物多様性のところの説明が少しわかりにくいというお話もございまして、生物多様性のところについては「地球上に多様な生き物が存在し、それらが支えあってバランスを保っている状態」とさせていただいて、それぞれの3つの多様性というものを括弧で少し説明を加えて記載をさせていただいております。

以上、用語をつけ加えて、22ページに、これは部会報告用ということで、今日までの

6回の部会の開催状況ということで、開催日と審議内容、それから最後のページにはご検討をいただいた委員のお名前を記載して、この形で部会報告をするということで今回修正をしてまとめさせていただきました。

説明は以上でございます。

【池田部会長】 どうも、ありがとうございました。

今、ご説明いただきましたのは、さきの素案を手直しした内容なんですけど、この報告書の骨組みということについては、前回大体ご了承を得ているわけですけども、今日はその記述の書き方等を少し最終的に確認して報告書を仕上げたいことをやりたいと思っていますので、説明を受けた後、またお気づきの点があるかもしれませんので、初めのほうから見ていきたいと思います。

私も何か説明を受けた後、読み返しておるとちょっとここはどうかなという箇所が、基本的な内容はこれでいいんですけど、出てきたりしておりますので、皆さんもそうじゃないかと思うんです。それで、まずちょっと「はじめに」との「基本となる視点」という、この5ページまでで何かお気づきの点はございませんでしたか。

【石井委員】 3ページの下から2行目のところなんですけど、新しく加えていただいたところ。「生物や食物等にも残留することがある」というくだりなんですけど、生物をつけていただくのだったら、生物濃縮の話を意識しなきゃいけないので、「蓄積・残留」ぐらいにさせていただくとありがたいなと思います。

【池田部会長】 「生物、食物等にも蓄積・残留」ですか、なるほどね。

【石井委員】 「蓄積・残留」がいいんじゃないかなと思います。

【池田部会長】 今のところは委員の皆さんよろしいでしょうか。石井さんからこのところは「蓄積」という言葉も入れたほうがいいのかというお話があったんですけど、よろしいでしょうか。

【大橋委員】 そこに関してなんですけれど。

【池田部会長】 そうですか。じゃ、大橋さん、どうぞ。

【大橋委員】 「にも影響がある」とか、「影響する」とかというような表現でアバウトにしたほうがいいのかないでしょうか。

【池田部会長】 なるほど、アバウトね。そうすると、大橋さんのご意見はどこをどういうふうに直したらいいかということになるんですか。

【大橋委員】 「残留する」というところを「影響がある」とか。

【池田部会長】 「影響がある」と。「生物や食物等にも影響することがある」というのがどうかというご意見が今ありましたけども。

石井先生どうですか。

【石井委員】 ここからは国語の問題ではないかという感じですね。そこをそうしてつじつまが合うかどうか。「環境に放出された化学物質が大気、水質、土壌といった環境媒体のみならず、生物や食物等にも影響することがある」。悪くはないかもしれませんが、でも、私の観点は「残留」と書くんだったら「蓄積」も入れてねということなので、ここを丸めて全部「影響」というふうな言葉にするのであれば、それでもいいかもしれませんね。

【池田部会長】 どうでしょうか。好みの問題もあるけれども、「影響」というふうに直すか「蓄積・残留」というふうにするか。どうでしょうか、委員の皆さん。

水野さんどうですか。

【水野部会長代理】 具体的に書くな「影響」でいいんじゃないかと、僕はそういうふうに思います。

【池田部会長】 そうですか。「影響」というのが賛成だというお1人、水野先生がそういうお話なんだけど、他の方はいかがですか。石井先生、それでもいいというお話なんですよね。「影響」でも構わへんという。

【石井委員】 だから、この文体全体の緻密さがどうかというのがあって、一生懸命書いてくれているので、ここだけ急にぼかすのもどうかなというのが私の考えです。

【吉川委員】 私もここまで丁寧に書かれるのであれば、具体的に書いたほうがいいのかという気がします。

【池田部会長】 具体的に書いたほうがいいのかという先生方はいかがでしょうか。まだおられるというふうにも思うけれども。

【諸富委員】 私もどっちかというたら、そっちの具体的なほうがいいと思います。

【池田部会長】 いいですか。そうしたら、どうでしょうか。水野先生、よろしいですか。

【水野部会長代理】 はい、私はどっちでも。

【池田部会長】 それじゃ、ここは大橋さんがせっかくぼやかすような提案をしていたんだけれども、文章の書きっぷりから言うと、きちっと「蓄積・残留」と書いたほうがいいのかという考えのほうが筋が通るように思いますので、これを「蓄積・残留」と直すことにしましょうか。

ありがとうございました。じゃ、それで結構です。

そしたら、その上のところなんですけど、ついでに私がちょっと気がついたのは、「事業活動や日常生活に伴い発生する環境負荷は」というのが主語でしょう。それがどんどんいって「問題が生じている」と言ったら、何か整合しないように思うんだけど、どうですか。いろいろな問題を生じせしめているとか何とかというなら話がわかるんだけど、「環境負荷は問題が生じている」というのはちょっと何か読んでいてちょっと奇異な感じがするんです。

【石井委員】 国語の問題ですね。

【海老瀬委員】 途中で主語がかわったという。

【池田部会長】 環境負荷は何か容量を超えて、どうもずっと読んでいるとこれが問題を生じているという意味なんでしょう。

【諸富委員】 そうですね。問題を引き起こしているという。

【池田部会長】 生じせしめているという意味ですね。

【諸富委員】 そうですね。

【池田部会長】 やっぱりこのところはちょっと。

【事務局（小林補佐）】 そうしましたら、「問題を生じさせている」ということで記載させていただくのでいかがでしょうか。

【池田部会長】 じゃ、問題を生じさせているというふうに直してください。

あと、何かお気づきの点ありませんか。

【水野部会長代理】 ちょっと細かいことですけど。

【池田部会長】 どうぞ。

【水野部会長代理】 2ページの「IPCCは」という、ちょうど真ん中のところありますよね。「世界平均気温2～3」と。これちょっと私の趣味ですが、「IPCCは第4次評価報告書で世界平均温度」云々としているほうが多分美しい。それから、第4次評価報告書が何年なのかという年も入れていただくほうがいい。ちょっと私、何年になるのかと言われたら、あれ、いつだろうと思ひまして。いかがでしょう。

【池田部会長】 今のご指摘の点はIPCCというのは、第4次報告書でこういうことを言っているということと、第4次報告書というのに年代を入れるということですか。

【水野部会長代理】 順番を変えるというのと、まず「IPCCは第4次報告書（何年）で世界平均気温」等云々という。

【池田部会長】 それこそ「IPCCは第4次評価報告書(何年)」とか入れるわけですね。

【水野部会長代理】 そうです。

【池田部会長】 それで、これこれと「報告しており」と、こうなるわけやね。

【水野部会長代理】 そのほうが多分いい。

【池田部会長】 そのほうがいいですね、文章としてはね。そういうように直すということではいかがですか。よろしいでしょうか。それじゃ、それもお気づきの点で直していただくということにしたいと思います。

それから、ちょっと私が見ついたところで、4ページの(2)のところに「地域発の取組みの推進」というところの一番最後のところに、「さらに、国に対し制度改革や財政上の措置等を講ずるように提案していくことなども含め、新たな財源の確保にも努め」とありますが、何か文章として稚拙な感じやね。こここのところ、むしろ「さらに、新たな財源の確保にも努め、環境分野における地域主権の早期確立を図ることが必要である」と。そして「そのためにも、国に対し制度改革や財政上の措置等を講ずるよう提案していくことが望まれる」とか、何かそんなふうに直したらどうですか。そうじゃないと、こここのところはちょっとぴんとこないよね。だから、まず最初に、「さらに、新たな財源の確保にも努め、環境分野における地域主権の早期確立を図る必要がある」というのを持っていってしまっ、「そのためにも国に対して制度改革とか財政上の措置等を講ずるように提案していくことが望まれる」というふうにしたらどうですか。そういう趣旨なんでしょう？

【事務局(小林補佐)】 そうですね。少し文章が長いのもありますし、きちんと伝わるように修正をいたします。

【池田部会長】 じゃ、そここのところをちょっと手直ししてもらうことにしてよろしいですか。

それともう1つ、(2)の「地域発の取組みの推進」というところの2つ上ですけど、「また、持続可能な経済社会システム」のところで、「一人ひとりの価値感が環境に配慮したものと変革され、経済やまちづくり等のあらゆる分野に」と書いてあるでしょう。「経済やまちづくり」というのは、何かこの2つがぴんとこないの、こここのところは経済というか、産業とか何かという意味じゃないんですか。「経済とまちづくり」が並列に並ぶと何かちょっと違和感を感じるんですよね。だから、強いて言うたら、産業やったらいいのかなという気はするけど、どうですか。

諸富先生、どうですか。ここを「経済やまちづくり」等というのの並べ方。

【諸富委員】 そうですね。多分、言いたいことはわかるんですけど、まちづくり、例えば今後のハードな社会資本とかインフラ整備のあり方なんか環境の視点を入れましょうということで、経済というと、多分むしろ先生のおっしゃったような産業といたしますか、民間経済の動きをなるべく環境保全型のほうに誘導していきましょうということじゃないでしょうか、どうなんでしょうね。何か多分違うものを指しているために2つ挙げたんだと思うんですけどね。

【事務局(小林補佐)】 16ページの施策展開のあり方の図のところでも、そういう形の図で整理をさせていただいておりますので、今、諸富先生に言っていただいたような趣旨で書かせていただいています。

【池田部会長】 ほんまや、ここにも「経済」、「まちづくり」と、ああ、ここは気がつきませんでしたけどね。そうですか。別に、私がそういうふうに並べるものがちょっと異質なものを並べているような気がしたんだけれども、経済の専門家の先生のお話だとこれでも別に違和感を感じるほどではないという話ですね。ほんじゃ、これはそれでいいことにしましょう。私は何か根拠があって言っているわけじゃないので、じゃ、これは「経済やまちづくり」等ということで、そのまま残すことにします。

それじゃ、5ページまで他に何かお気づきの点ありませんでしょうか。今直していただくところは直していただいて。

【水野部会長代理】 もう1カ所、じゃ、3ページ目の2つ目の段落で「化学物質については」というところがあるんですけど、大体ここら辺の構成は現状が書いてあって課題がその後に書いてあるというイメージで、4行目に「今後は、化学物質による環境リスクの情報共有や対話が重要となる」という課題がここに書いてありまして、また現状が書いてあると。その後に「また、土壌汚染」としてはこういうことをしましたという実績が書いてあって、ちょっとこれは趣旨が違っちゃうとあれなんですけど、「今後は」云々という課題のことを文段の最後へ持っていかれたらどうかと。そうすると、ちょっと意味が違うということであれば別ですが、現状と課題という、ほかのところはみんなそういうふうになっていると思いますので、読みやすいと思いますが。

【池田部会長】 これはそうすると、水野先生、「また、土壌対策」の文章の後ろでいいんですか。それとももっと後ろですか。

【水野部会長代理】 いやいや、そこの後ろでいいと思います。

【池田部会長】 その後ろでいいわけね。そうすると、「定着化しつつある」と、そして「また、土壌汚染対策としては」云々とあって、その後、前にあった「今後は」というのを続けると。

【水野部会長代理】 はい。

【池田部会長】 そのほうがベターですね。じゃ、それは皆さん異論がないと思いますので、これを修正していただくということにしたいと思います。

他にはよろしい？

【海老瀬委員】 そのページ、何でその行から「化学物質」から1行下がっているのか、ようわからないんですけども、別に意味はないんじゃないかと思えますけども。

【事務局（小林補佐）】 すみません。

【海老瀬委員】 「化学物質」の上と下で、何か1字へこんでいる。ちょっとつまらんことで。

【事務局（小林補佐）】 すみません。ちょっと編集のところで段がずれているということで、全部チェックして直します。

【池田部会長】 じゃ、きちっと直してください。そこまではここで指摘せんでも事務局で直してくれていたらいいんですけども、先生今お気づきのとおりです。

そうしたら、5ページまでは大体それでよろしいということにして、今度は の「計画の枠組み」というところについて、これは8ページの表を手直ししていただいているんですけど、あとは内容的には特に手直しする点がなかったんですけども、後で何かお気づきの点があるかもしれませんので、それについてももしご意見があればお出しいただきたいと思えますけど、いかがでしょうか。

8ページの「計画の枠組み」の図については手直ししたものについてこれでよろしいということなのか、それも吟味していただきたいと思えます。よろしいでしょうか。

ちょっと私が気がついたのは、7ページの の「主要課題の抽出」というのがあるわけですけど、その2段落の「特に取組みを強化すべき課題については、主要課題として明らかにした上で、その解決のために重点的に取り組む必要がある」という文章が、何かちょっとおさまりが悪いような気がするんです。「主要課題として」明記するというわけでもないんですけど、ここのところは「特に取組みを強化すべき課題については、主要課題とした上で」とかいう意味なんでしょう。

【事務局（小林補佐）】 はい、そうです。

【池田部会長】 「した上で、その解決のために重点的に取り組む必要がある」と。

【石井委員】 「明らかにした上で」が要らない。

【池田部会長】 「主要課題とした上で」でいいので、「明らかに」というのはなくてもいいんですね、主要課題にするんだからね。だから「明らかに」があると何かちょっとおさまりがつかないんで、もし「明らか」というのに類似したものを書くとしたら明記した上でとか何かになるんですけども、「強化すべき課題は主要課題とした上で」というのでいいわけですか。

【石井委員】 「主要課題と位置づけ」なんというのは格好いいんじゃないんですか。

【池田部会長】 「位置づけて」とかというのだったらいいわけですか。「主要課題として位置づけて」というのもいいですね。

【石井委員】 「主要課題と位置づけ」が私のセンスでは格好いいのではと。

【池田部会長】 「ついては、主要課題と位置づけ」やね。そしたらこのところは、「強化すべき課題については、主要課題と位置づけ、その解決のために重点的に取り組む必要がある」と、こういうふうに直したいと思いますけど、よろしいですか。

ありがとうございました。

そうしたら、このところはもともと直しがなかったところなので、 の「計画の枠組み」はそれぐらいで、また後でご意見があればお出しただくとして、 の「目標設定の考え方」というところに行きまして、ここでは事務局預かりということにしていました真ん中のキャッチフレーズです。これを事務局でひとついいものを考えてほしいということで、先回の第5回の我々の会合ではいろいろと意見が出たんですけども、特にまとまりのある、そういうキャッチフレーズが作成できなかったのも、後で事務局に持ち帰っていただいて部内でもいろいろと検討いただいて、そしてそこに示されているわけですが、その検討の結果等についてちょっとご説明をよろしくお願いいたします。

【事務局(小林補佐)】 それでは、お手元「参考1」と書きましたA4の1枚物ですけども、「将来像(キーフレーズ)に関する部会委員の意見」ということで、失礼ながらメールで急いで送らせていただきまして、そこの(案1)(案2)にあるように、「府民が誇り伝える、持続可能な環境・エネルギー先進都市」というのと、「持続可能で暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市」という2つを書くということで、選んでいただくというようなことをメールで送らせていただきました。いただいた意見では諸富委員とか花嶋先生にいただいているように、案2のほうがという意見もいただいております。

それから、横山委員は特にフレーズに対する意見というよりは、先ほどちょっと修正(案)の中にも入っているように、特に人は人と自然が共存するために何をするのかというのを考えていく時代なので、そのあたりを配慮してほしいということのご意見をいただいております。

それから、水野部会長代理には提案をいただきまして、「上手に暮らせる持続可能な環境・エネルギー先進都市」、それから藤原委員は「大阪・関西がリードする、持続可能な環境・エネルギー先進都市」、大橋委員は一番下にありますように、ご提案いただいたのは「元気な府民パワーが創る、環境・エネルギー先進都市」というのをいただいております、これをきょうはご議論いただきたいということでございます。よろしくお願いいたします。

【池田部会長】 ありがとうございます。

今、説明いただきましたように、持ち回りで委員の皆様にご意見を伺いましたところ、そこに示されたもののうち、案2の「持続可能で暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市」というのでよろしいという方が何人かおられたわけですが、その下に水野委員、藤原委員、それから大橋委員が新しい提案をしていただいているわけで、これを本日は取りまとめなきゃいけないわけです。大方納得ができる範囲だったら、少しそこに提案されているキャッチフレーズじゃなくても受け入れていただければまとめることができうれしいわけですが、それぞれそういう案を出された先生方にご意見を伺いたいと思っておりますけど、まず水野先生からちょっとご意見。

【水野部会長代理】 そうですね。案2ですと、「暮らしやすい」という言葉で、府民がどちらかという、そういうサービスを受けて暮らしを享受するという受け身的なイメージがありまして。やっぱり「環境・エネルギー都市」をつくっていく主役は府民ですよ、ということをおっしゃっておりますので、今までの便利快適に暮らせるという都市から、上手に暮らせる都市というイメージを出したかったと。そういうニュアンスでいくと大橋委員が書いておられる元気な「府民パワーが創る」というのと、ちょっとニュアンスが似ているのかなと。そういう思いがちょっと入ってそういう表現をさせていただいたということです。

【池田部会長】 ありがとうございます。

そしたら、大橋さん、今水野先生と大体共通するところがあるというお話なんだけれども、とにかくご意見賜りたいと思います。

【大橋委員】 実は、お花見に行って、もう1つ考えたのが、「彩りのにぎわいのある環

境・エネルギー先進都市」というのを考えたんですけど、何かきれいな言葉を並べるだけでは具合が悪いかなと思って、府民が頑張らあかんねんという意味で、こういうキャッチフレーズを考えたんです。

【池田部会長】 どうなんででしょうか、今、話していただいたところをみると、そういう何か「環境・エネルギー先進都市」をつくるプロセスみたいなものがそこににじみ出るというような案と、それじゃなくてそこにでき上がる都市像というのをそこに書いたのが案2じゃないかと思うんです。ですから、そこらのところを少しご議論いただいたら、今日はちょっとまだ時間があるので、ありがたいわけですけども、今のお2人以外の先生方がいかがでしょうか。

石井さんいかがでしょうか。

【石井委員】 ちょうど忙しいときにメールを受け取って、ちらっと2つ見てどっちもだめだなと思って何か言おうと思ったんですけど、そのうち忘れてしまいました、どうもすみません。それで、なぜ2つともいまいちかなと思ったのは、やっぱり上のほうは「誇り伝える」といったら今そういう状態じゃなきゃならないんだけど、何かそうは思えないなというのと、次の「持続可能で暮らしやすい」というのは、先ほどから議論があるようにおとなし過ぎるといいますか、その状態を記述しただけみたいで、何か力が感じられないという、その2つと、あとは横山委員の中に書かれている私の専門分野の自然との共生のところは「暮らしやすい」で伝わるのかなというのと、それから大橋委員が言われている「元気な府民」、要するに大阪らしいところがないところなんです。これを、じゃ、全部合わせたらどんなのになるかというのをちょっと考えていたんですけど、ノーアイデアだったんです。ちょっと今考えますのでしばらくお時間を下さい。

【池田部会長】 海老瀬さんどうぞ。

【海老瀬委員】 私もいろいろ考えてみたんですが、あんまりこれやというようなええ案が見つかりませんでした。「暮らしやすい」とか「誇り伝える」というような感じよりも「府民が創る」というような感じがいいかなと。「元気」というのは、元気でない人はどうなるんやというような感じもあるので、パワーも要るかどうかというのはちょっと人いろいろかなと思うので、府民が主役ということなら「府民が創る」とか、それで少なかったら「持続可能な」というのを入れたらいいんじゃないかなと思っていますけども、必ずしもそんなベストな案でもないように思えて、ちょっと迷います。

【池田部会長】 ありがとうございます。

吉川さん、いかがですか。

【吉川委員】 私もいただいたメールで苦労されたんだなと思って、ちょっとそれ以上発展しませんでした。「元気な」は要らないのではないかなと思います。「府民パワーで創る、環境・エネルギー先進都市」でしょうか。

【池田部会長】 今のご意見を伺ってしまして、諸富さん、花嶋さん、何か補足というか、それでいいというふうに書かれたけど、どちらかといえばということだから、とにかくその2つから選べと言われたら案2がいいというふうに考えられたんだと思うんです。だけど、もしこれじゃなくてもいいんやというたら、何かありますか。

どうぞ、じゃ、花嶋さん。

【花嶋委員】 私も案2のほうがいいと書いたように、これ以上混乱しても仕方がないかなと思ったんですけど、先ほど来のお話をお伺いしていると、確かに案2よりも「府民パワーが創る、環境・エネルギー先進都市」とかのほうがいいなという感じで、ただ、これ以上てんこ盛りにするのは限界があるかなと思うので、「府民パワーが創る」、あるいはあえて府民と言わずにもう少しぼかして「大阪パワーが創る」とかそのぐらいのほうがいいかなと思いました。

【池田部会長】 諸富さん、何かご意見いいですか。

【諸富委員】 私も案2がいいと思っているんです。部会長が言われた将来望ましい状態を掲げるという意味では案2なのかなと思うんですが、やっぱり皆様の意見でちゃんと参加してそれをつくっていくというのを強調したいという思いが皆さん強いんだなというふうに私も思っていて、そういう意味ではちょうど海老瀬先生が言われた「府民が創る」、「持続可能な」というのをいれるかどうかは膨らみ過ぎるかどうかということにも関わらなんでしょうけど、「持続可能な環境・エネルギー先進都市」というのはいいご提案だなと、お聞きした中では思いました。

【池田部会長】 ありがとうございます。

今、ご意見を一当たりお尋ねしたら、やはり何かそういうプロセス、単に結果として暮らしやすい都市ということではなくて、「府民が創る」ということが、藤原委員さんは今日のご欠席ですけども、「大阪・関西がリードする」という、やっぱり何か主体的なものをそこにに入れてほしいという意味だと思うんです。ですからそうなると、「持続可能な環境・エネルギー先進都市」というのは、これは大橋さんに言わせたらどこでもあるからちょっと大阪らしさが出ないという話、そのとおりや思うんですけど、だけど逆言うたらどこでも

入っているということは必要だという話になるとそのところは残して、前段に「府民が創る」とか、何か「府民が上手に暮らす」とかというようなことを入れれば、皆さんのご意見がまとまるんじゃないかと思うんですけども、そうするとどんなものでしょうか。

藤原さんは「リードする」という言葉を使っているんですが、ここはやっぱり創造の「創る」というのでいいんでしょうね。だから、府民「パワー」が要るか要らんかという話になったらどうですか。「府民が創る」でもいいにはいいわけやね。「府民が創る、持続可能な環境・エネルギー先進都市」。これは「はじめに」のところを見ていますと、以前のやつも「豊かな環境都市・大阪」と入っているでしょう。それから、将来ビジョンも「将来ビジョン・大阪」になっているよね。これも何かそれと整合させるようになったら「持続可能な環境・エネルギー先進都市・大阪」という話になるのかなという気はするんですけどね。ただその際、最初に「府民」というのが出てくるということになると、同じことを2回言ったかなという気もちょっとせんわけじゃないんだけど、「大阪」というのを最後に入れたほうがいいか、入れなくてもいいかという話になると、どうでしょうか。

【海老瀬委員】 「先進都市・大阪」とかするわけですね。1つインパクトが、最後のとどめみたいに押しを1つ入れると。

【池田部会長】 「府民」がどういうふうに「創る」という話になるとどうなんですか。今のご意見を踏まえると、そこに出てくるのが、「府民が創る、持続可能な環境・エネルギー先進都市」ということになると思うんです。その後ろに大阪をつけるかつけないかという問題があるかもしれませんが、「府民が創る、持続可能な環境・エネルギー先進都市」というのはどうでしょうか。

【石井委員】 「暮らしやすい」は捨てがたいんですよ。

【池田部会長】 捨てがたいね。

【石井委員】 やっぱり何か府民が行政にやらされてエネルギー先進都市をつくっていくという標語になってしまうので、府民が何のためにやるのかと言ったら「暮らしやすい大阪を創る」んだという、そのスタンス、この「暮らしやすい」があるから私は納得しているのは、いろんな含みがあって自然なんかも入っているのかなと思えるんですけど。だから、例えば「府民が創る、持続可能な暮らしのある環境・エネルギー先進都市・大阪」とか。長くなるとだめと言っていたけど。

【池田部会長】 「持続可能」というのは絶対なきやいけないわけですか。そうすると、「府民が創る、暮らしやすい環境・エネルギー先進都市」というのだってあると思うんで

す。だから、「持続可能な」というのは当たり前のことだという話になれば、わざわざ書かなくてもいいというような時代になっているかもしれません。

【石井委員】 　ただ、事務方がちょっと気の毒なのは、議事録を見たらこの両方を捨てがたいとみんなが言っているから「持続可能」と「環境・エネルギー先進都市」は外せないと議事録から読めるから頑張って入れてくれたんだと私は思うので。

【池田部会長】 　多分苦労して3日3晩寝なくて考えたというくらいだと思うんですね。

【海老瀬委員】 　何か、持続可能なというのは一時的で息切れしてしまわないという意味も結構長続きするものをとというような意味があっていいんじゃないかと一部では思うんですけど、全体の長さの中でどれを優先するかということやろうと思います。

【池田部会長】 　そうすると、とにかく「府民が創る」というのは採用するということにしましょうや。「府民が創る」、その次や、その次が問題。ですから、石井さんのお話だったら長くなるけれども、「府民が創る、暮らしやすい持続可能な環境・エネルギー先進都市」だったらいいわけですね。

【石井委員】 　そうですね。

【池田部会長】 　ということになるわけよね。ちょっと長いというのが難んだけど、長さに制限があるわけじゃない。

【石井委員】 　国語の問題で、やっぱり語調というのもあって5・7・5を基本に読みやすい。

【大橋委員】 　覚えられて言いやすい長さが必要やと。

【花嶋委員】 　そうすると、「持続可能」がはじき出されるかなというか、「府民が創る、暮らしやすい環境・エネルギー先進都市」ぐらいだと一息で言えるんですけど、そうじゃないと、「府民が創る、暮らしやすい持続可能な環境・エネルギー先進都市」という、ちょっと苦しいです。

【石井委員】 　「持続可能」は「環境先進都市」の中に入っていますよね。

【池田部会長】 　入っているのには入っているわね。

【石井委員】 　ダブっているんでしょうね、きっと。

【海老瀬委員】 　あんまり長くなったらやっぱり取ってもいいという。

【石井委員】 　事務方にごめんなさいと言ってここを外すか。すみません。

【池田部会長】 　そうしたら、今の、「府民が創る、暮らしやすい環境・エネルギー先進

都市」というのがクローズアップされてきたように思うんです。その場合に、「持続可能な」というのはこれまでの議論では「持続可能な」というのがあるほうがベターだという意見やったと思うんです。それで、事務方ではそれは外せないということで「持続可能な」というのをつけて、そうすると最初から入れなきゃいけない言葉が2つあるから非常に苦労するわけですね。だけど、「持続可能な」というのがもしなくてもその意味するところは「環境・エネルギー先進都市」ということで含まれているという話になれば、「府民が創る、暮らしやすい環境・エネルギー先進都市」というのがキャッチフレーズにしてもいいのではないかなという気もしてくるんですけど、この「府民が創る」というのが入ると水野先生の言うところの「上手に暮らせる」ということは意を満たすことになりますか。

【水野部会長代理】　ちょっとずれてはいるんですけど、まあまあ、パーフェクトはなかなか無理でしょう。私が妥協しますから。

【池田部会長】　一応「府民が創る」ということを入れたから、それでも了承できる範囲内だという話なんで、これでいきますか。そうすると、「府民が創る、暮らしやすい環境・エネルギー先進都市」。その後ろに大阪というのを入れるか入れないかいうたらどうします？

【石井委員】　入れんでいいでしょう、別に。

【池田部会長】　入れなくてもいい？

【石井委員】　ええ。

【池田部会長】　そうしたら5・7・5じゃないけれども、「府民が創る、暮らしやすい環境・エネルギー先進都市」というのを採用しましょうよ。

藤原さん、後からお見えになったのでご意見聞かなかったんですけどね。

【藤原委員】　それで、結構です。

【池田部会長】　よろしいですか。先ほど、藤原さんの提案されていたのを多分誰がつくるかというような主体的なものをキャッチフレーズの中に入れてもいいというご意見ではないかというふうに理解していたんです。ここにあります最初の事務局（案）ではどちらかというたら案2がいいというご意見が多かったんですけども、案2ではちょっと誰がそういうものを創造するのかということについてあまり受け身的だということで、「府民が創る」というのを採用しましょうという話になったんです。ですから、そのところが「リードする」とまでは言っていないんですけども、「創る」ということで「リードする」ということを含んでいるということで、よろしいですか。

【藤原委員】 結構です。

【池田部会長】 それじゃ、「府民が創る、暮らしやすい環境・エネルギー先進都市」と、これを採用するということにしましょう。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、事務局でいろいろと工夫してつくっていただいたんですけど、それをこの場で修正させていただくということにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

そしたら、あとの「目標設定の考え方」の のところで、キャッチフレーズ以外のところで何かお気づきの点はございませんでしょうか。

さきに海老瀬先生の中から、主体、主体というのはいかがかというご意見を出されたんですね。だから、「主体」というのを「関係者」に直すと、今度は逆に関係者、関係者と。「関係者」ばかりに直しちゃうと、何で「主体」という言葉を使わないのかということの説明もできないので、そのところは分けて何か最初に修飾語があるような場合は「関係者」とすると、ただどもそういう修飾語がない場合は「主体」ということでいくということで事務局としてはまとめていると思うんです。ですから、それでいきたいと思います。

他に何かお気づきの点ありませんか。直していただいたところが15ページなんかは結構ありますけれども、このあたりのところもよろしいでしょうか。

花嶋さん、どうぞ。

【花嶋委員】 すごく小さな指摘ですけれども、5ページの一番後ろに。

【池田部会長】 5ページですか。

【花嶋委員】 すみません、戻っていただいて。「なお、ここで「府民」とは、大阪府に住む人だけでなく、大阪府に通勤する人等も含めた」というところに当然ここには「通学」も入っているとは思いますが、大学生は結構いろんなところで活動することが多いので、「通勤、通学」にさせていただけたらなど、ちょっと思いました。

【池田部会長】 私も何かそういうふうな気持ちを持ったんですけども、強いて言わなかったんですけど、今ご意見が出たら、確かに「通勤、通学」と一般では使われますよね。だから、単にそういう「通勤する人」というといかにも成人だけの感じだけでも、成人じゃなくて子供やなんかも皆「主体」だというふうなイメージでは、ここでは「通勤、通学」も入れるということにしましょうか。それがいいように思いますけど、よろしいですか。じゃ、ここは「通勤、通学」を入れて修正するというにさせていただきますか。

それじゃ、今戻りましたけども、 のところ、それから のところにもいっていただいたらいいと思いますけど、 、 の内容について何かお気づきの点をご指摘いただきたいと思います。 の「施策展開のあり方」のところについてもご意見をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

そうしたら、また後でご意見があれば出していただいて、一応 のほうも含めて、どうぞ、吉川さん。

【吉川委員】 前からそのままのところですと気になっているのですが、14ページの「府域における」「全国ワースト1である現状も踏まえ」と書いてあって、大阪府は一方でこういうことを今までやってきているのだから「全国へ発信していくべきである」と書かれています。何かちょっと偉そうな気がするのです。だから、「大阪府は、廃棄物・リサイクルに関して、全国初となる」という文章の段落を上を持ってきて、ただし、「府域におけるワースト1である現状も踏まえ」というのを次にして「施策の展開に当たっては」というような文章の組み立て方のほうが、すんなり受け入れられると思うのですが、いかがでしょうか。

【池田部会長】 なるほどね。

【吉川委員】 感想ですけども。

【池田部会長】 事務局はどうですか。書いたときの流れでこうなったということだけど、今のようなご意見が出るというのは予想していなかったと思うんだけど、どうですか。

【事務局(小林補佐)】 他のところもそうなんですけど、現状認識を書いた上で、その後どういう展開をするかというところでこういう順番になっていましたので、ちょっとそこはあまり認識をしていなかったところでございますけれども、これは今の段落ごとひっくり返すというような。

【吉川委員】 こういうことをしているにもかかわらず「全国ワースト1である」のは何故かということについて、ほんとうは検証が必要なのでしょうかけれど、今さらそれを言われてもということになると思うので、少し文章の書き方をひっくり返したらいいのではないかとは思っています。

【池田部会長】 ここはさっきの現状と課題のところじゃないんですよね。ですから、4つの基本方向というのも現状と課題というのを順番に書かなきゃいかん理屈はないわけだけど。

【福原循環型社会推進室長】 今、先生ご指摘の前後の変えるということは、確かにお

っしゃるように、私どもとしてはこういう展開をしているんだけども、残念ながらまだこういう状況やというのは認識しておりますので、その段落の組みかえのほうで現状認識もあわせて今後の展開を進めるに当たっての大きな課題であるということで、皆さん方におわかりいただけるようなことになるのかなと思いますけど。

【池田部会長】　　ということは、最初に「全国へと発信していくべきである」という段落を前に持っていても構わないということね。そうすると、それにもかかわらずということになるわけ。

【福原循環型社会推進室長】　　一方というか。

【池田部会長】　　一方か。何か、「全国ワースト1」というのを掲げなきゃいけないのかという話も出てくるような気もするんやね。そうすると、何かわざわざ人にあまり公言すべきものではないのをここでひけらかして、ワースト1をひけらかしてもしょうがないわけですけどね。

そうすると、今のご意見を活かすと「大阪府は、廃棄物・リサイクルに関して」云々という段落をひょっと前のほうへ持っていくわけですね。「不可欠である」という後に。そして、「一方」ということになるんですか。その次に、そうすると単に入れかえたらそんでいいというわけじゃないね。後ろのほうには何か接続詞が要るわけでしょう。

【福原循環型社会推進室長】　　接続詞としては「しかしながら」のほうがいいんですね。

【池田部会長】　　そうすると、「しかしながら」かな。そうすれば、一応このところは入れかえというのがいけると。この一番最後の「施策の展開に当たって」云々というのは、そうすると一番最後でいいわけですか。

【福原循環型社会推進室長】　　そうです。

【池田部会長】　　これはそのまま残していいわけですね。そうすると、14ページの一番先の段落の5行、これを「しかしながら」というのをつけて「大阪府は」という段落の「発信していくべきである」の後へ持ってくるということで、今のご意見を活かすということによろしいでしょうか。事務局もそれによろしいですか。ほんなら、それはそういうふうに直していただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

大橋さん、どうぞ。

【大橋委員】　　16ページの図2なんですけれど、矢印は時間的なものとおっしゃった

ので、未来へ向かっていますよね。「参加・行動」の後の3つの矢印がきゅっと横向くんです。この矢印も同じ方向に向けていただいたほうが体裁としてはいいのかなというふうに思います。

【池田部会長】 これは好みの問題もあるかしらんけれども、どうですか。真っすぐにすると3つも要らんわけですな。真っすぐにしたら1つでいいわけでしょう。

【海老瀬委員】 「参加・行動」を四角で囲んで矢印を1つにしたらどうでしょう。

【池田部会長】 大きい矢印1つね。「参加・行動」というのは1つですからね。そうしたら、このところ、3つの矢印があるけど、大きい矢印で真っすぐのやつを1つということにしましょうか。それじゃ、そのところはそういうふうに直していただくということ取りまとめさせていただきます。

【石井委員】 ちょっといいですか。

【池田部会長】 どうぞ。

【石井委員】 今のところについてですけど、これもやっぱり事務方にごめんなさいなんですけども、標語が変わってしまったので、この図と整合性がとれなくなってしまうんです。

【池田部会長】 ここのところね。

【石井委員】 例えば、一番右側のところに先ほどのキーフレーズが入るんですけど、「持続可能で暮らしやすい環境・エネルギー先進都市」がゴールになっているからこんなふうにかけるんですけど、でも今回は「府民が創る」というプロセスも入れちゃっているので、完成形じゃないんですよ。これ全体を動かしていくのも府民なので、ちょっとその辺の工夫が必要かなという、またちょっと苦しめてしまうんですけど、上の点線で囲ってある3行書きのところの最後のところも「府民が創る」というキーフレーズになってくると日本語が変になっちゃうんです。「促すことにより、「府民の創る、暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市」の構築を目指す」なんていうのは変なので、例えば「促すことで、府民の創る、暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市の実現を目指す」とか、「構築」をいっそのこと取っちゃうとか。何かちょっとこの図自身が違ってくる可能性があるかなということですよ。

【池田部会長】 だから、ここには先ほど修正したキャッチフレーズをそこへそのまま活かすわけにはいきませんわね。だけど、「府民が創る」を取ってしまったら、今ここに書いてある「持続可能で暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市の構築」というのやった

ら、それは行きつく先がそれだということによろしいということにはなりませんか。何かこの点、ご意見ありませんか。

【石井委員】　　ここは、だから、このままいこうと思ったら、ここだけは「府民が創る」を取っちゃうんですかね。何かちょっとしっくりこない。

【池田部会長】　　「府民が創る」というのがここに入るのもちょっとおかしいにはおかしいね。「参加・行動」と書いてあるわけですからね。

【花嶋委員】　　「参加・行動」を「府民が創る」に横書きか何かで、「府民が創る」に変えて、行きつく先が「暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市」。

【池田部会長】　　だから、この「参加・行動」というのが府民の「参加・行動」なんでしょう。だから、このところを「参加・行動」というのを「府民の参加・行動」というふうにしてもらったらどうですか。そして、その結果として「持続可能で暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市の構築」ということで、キャッチフレーズには持続可能というは入れなかったけども、それは語呂の問題があるので、ここでは「持続可能な」が入っていても別にそれでどうこうというわけじゃないけど、むしろ親切丁寧だという話ですからいいように思うけど。それでよろしいですか。

【石井委員】　　だから、それだったら上の3行書きのところのかぎ括弧を取りましょう。

【池田部会長】　　どこのかぎ括弧？

【石井委員】　　上に点線で3行書きがあるでしょう。

【池田部会長】　　この上のね。

【石井委員】　　かぎ括弧があると例のキーフレーズかなということになってしまうので。

【池田部会長】　　上とのリンクで、かぎ括弧は取ってキャッチフレーズをそこで活かしているのと違うということをおわかってもらうということにしましょうか。じゃ、そのように直してください。

そしたら、の「計画の効果的な推進」から「用語解説」のところを含めて何かお気づきの点はありませんか。

それで、一番最後ですけど、23ページの横山さんのところ、NPO法人「人と自然とまちづくりと理事長」とここは何やわけわからんのやけどさ。かぎ括弧で「人と自然とまちづくり」というのでかぎをくくって、「と」は取るということのかなと思ったんだけど、それでいいの。

【事務局(小林補佐)】　　NPO法人の名前が「人と自然とまちづくり」という名前

すので、読みにくくなっていますので、そこをちょっとあけて理事長と書かせていただきます。

【池田部会長】 そうしたらさ、かぎ括弧をつけたらいいんですよ。「NPO法人、人と自然とまちづくり」というのでかぎを閉じて、そして理事長いうたら、ああ、これはNPO法人の名前やなとわかりますけどね。このままだったら何や知らんけどぴんとかなくてね。わかるようにしてあげてください。

【事務局（小林補佐）】 はい。

それと22ページの第6回の日付を間違っておりますので済みませんが修正をいたします。申しわけございません。第6回の開催日を本日の日付に22年4月16日ということ。ちょっと上からコピーしたところがありまして、すみません。

【池田部会長】 じゃ、それは修正してください。

吉川さん、どうぞ。

【吉川委員】 16ページのところの のところですけど、後で入れてもらった「なお、環境の施策は多岐にわたる分野におよぶ多面的な便益の創出があることから、全ての把握は困難であることに留意する必要がある」ですが、何か言い訳しているような気がします。入れる必要があるのかなと気になっているのですが、この意味のとり方を私が間違っているのでしょうか。

【池田部会長】 これは、そこに修正したのは、前の素案のところでは費用対効果のところはそのときからあるんですね。「なお」書きは素案のときから。ここを直すというのはどういうご意見で直すことになったんですか。

【事務局（小林補佐）】 これは前後をひっくり返したんですけれども、今のご指摘を踏まえると、「全ての把握は困難」という言いわけをしなくても、「多面的な便益の創出があることに留意する必要がある」とか、そういう形で。

【池田部会長】 以前の素案のときは「なお、環境の施策は多岐にわたる分野と関わりがあるため、多面的な便益の創出があることに留意が必要である」ということになっていたわけやね。それが「分野におよぶ多面的な便益があることから、全ての把握は困難であることに留意する必要がある」と直したから余計に言い訳がましくなって、前のほうが言い訳がましくなかったような気もするけどね。

こここのころはどうでしょうか、何かほかの委員の方はご意見ありませんか。

諸富さん、どうぞ。

【諸富委員】 これは基本的には「選択と集中」のためには費用対効果分析のようなものを行われなければいけないということは基本認識としてあるということですよ。ただその一方で、機械的に費用便益分析をやってしまうと、今度は環境というのは実際にここに書いていますように「多面的な便益」、いろんな環境の分野があって全て貨幣換算できないようないろんな便益、生物多様性とかいろんなものを評価できずに切ってしまうことにならないかというおそれも一方であるので、そういう点は留意しながら、しかし基本的にはどこに予算を重点的に配分するかは考えていかないといけないという趣旨だと思うんです。ですから、このままだと吉川さんおっしゃったようにちょっと言い訳をしてできないですねという結論のほうにとられてしまいますので、そういった点に「多様な便益の創出がある」ことに留意しながら、しかし、留意するけれども、費用対効果の把握というのをやっていきましょうというふうに、再び逆転するというのでしょうか。そういうふうにかかれるとかがかなというのが私の意見です。

【池田部会長】 そうすると、把握を行う必要があると。後ろの段落はこれはちゃんとやっぱりそこで示しておく必要があるわけですね。そういう困難性があるということはおわかってもらおうと。

この「なお」というのが「しかし」というほうがええんと違う？

【諸富委員】 これのままですと、「把握が困難」というところが強調されている点になります。

【池田部会長】 「全ての把握は困難であること」ね、そのこのところをもう少しまろやかに。

【諸富委員】 留意するという点がいいと思うんですが。

【池田部会長】 「全ての把握は困難であることに留意することから」、何かいい修正、字句はありませんか。「便益の創出があることから」。

【事務局（小林補佐）】 修正（案）としては「なお」を取った形で、ここを先に「環境の施策は多岐にわたる分野におよぶ多面的な便益の創出があることに留意しつつ」ということで、上の「限られた予算で「選択と集中」により施策を実施していく中では、費用対効果の事前把握及び検証を行う必要がある」という形で。

【池田部会長】 文章を一文にしちゃうということですか。

【事務局（小林補佐）】 はい。ちょっと長いですね。

【池田部会長】 「限られた予算で「選択と集中」により施策を実施していく中では」

の次に下のやつ、そこへ挿入するわけね。

【事務局（小林補佐）】 上に、先に、ひっくり返しまして、「環境の施策は」から始まって。

【池田部会長】 一番最初に行くわけか。じゃ、「なお」を取って、「環境の施策は多岐にわたる分野におよぶ多面的な便益の創出があることから、全ての把握は困難であることに留意しつつ」やね。そして「限られた予算で」というふうが続くとういことですか。何か長ったらしいな。

【事務局（小林補佐）】 「全ての把握」のところは取って、「多面的な便益の創出があることに留意しつつ」ということでいかがでしょうか。言い訳をせずに。

【池田部会長】 一番最初に行くのが何か頭がめちゃくちゃ重いね。だから、やっぱり適確に言いたいことは「限られた予算で「選択と集中」により施策を実施していく中では、費用対効果の事前把握及び検証を行う必要がある」というのが主文やからね。だから、「ただし」とか何か。

【石井委員】 「その際には」とかいうのはだめですか。

【池田部会長】 「その際には」とか何かそういうのでやっぱり後ろに文章を続いたほうがええんと違いますか。そうすると「必要があろう」ぐらいでもええわけや。絶対言い切ってしまうときつわからね。だから、検証を行う必要があると、やっぱりこの文書を最初に、言いたいことをばーっと言って主文があってその後で「なお」というのはちょっとぴんとこないの、「しかしながら」とか何か「そのためには」とか何かほかの接続詞ないでしょうか。

【事務局（小林補佐）】 「留意する」というのは、「事前把握」とか「検証」に当たって「留意する」ということになりますので、「その際には」か、繰り返して「検証に当たっては」とか。

【池田部会長】 「その際には」か。

【花嶋委員】 「全ての把握は困難であること」というのを抜くと言い訳がましくなくなるような気が。「多面的な便益の創出があることに留意する必要がある」にすれば、言い訳がましさが大分減るような気が。

【池田部会長】 だから、「全ての把握」というのは「把握の困難な部分がある」とかと言ったらいいいわけですね。「把握の困難な部分があることから」とか、何かちょっとやったらいいいわけでしょう。どうでしょうか。そうすると「必要がある」ということの最初の2

文はそのまま残しておいて、その次に、「ただし、その際には」とかという言葉を入れて、「その際には環境の施策は多岐にわたる分野におよぶ多面的な便益の創出があることから、把握の困難な部分もあることに留意をする必要がある」と、そんな程度に直したらどうでしょうかね。

【諸富委員】 何か「把握の困難」というのは要らないという意見もありますが。

【池田部会長】 「便益の創出があることから」、何に「留意する」。

【水野部会長代理】 「あることに留意する必要がある」で、「ことから」から「困難である」までを取ってしまう。

【池田部会長】 なるほどね。「創出があることに」やね。「あることに留意する必要がある」。それでも意味としてはいけるわけね。それじゃ、そうしましょうか。そうすると最初の2文は残して、その次の接続詞は何にしますか。「なお」でいいですか。

【水野部会長代理】 私は「なお」でいいような気がしますけど、だめですか。

【池田部会長】 ここのところを取ってしまえば「なお」でいいかもしれないね。ほんなら「なお」というのは残して、「なお、環境の施策は多岐にわたる分野におよぶ多面的な便益の創出があることに留意する必要がある」ということに修正したいと思います。

ありがとうございました。

あと、 の「計画の効果的な推進」とか、それから「用語解説」のところについては何かご意見ありませんでしょうか。

藤原さん、どうぞ。

【藤原委員】 15ページの3の の「関西広域連合」という言葉が出ていますが、これはちょっと用語の解説を加えないと一般の府民の方はまだわからない方がたくさんあると思います。

【池田部会長】 みんな常識的に知っていると言われたけど。

【藤原委員】 それはまだ一般の府民の方に知ってもらうというのが課題なんですけども、それはまだ知られていない状況ですので、ぜひ注を入れていただきたいと思います。

【池田部会長】 ほんなら、この「関西広域連合」というのは注を入れて後ろの「用語解説」のところに「関西広域連合」というのをお願いします。広域連合という話なんだけど、地方自治法でいっているところの広域連合を意味しているわけね。

【藤原委員】 その目的を含めて。

【池田部会長】 これは事務方では説明するのは簡単よね。ほんなら「関西広域連合」

というのをちょっと注をつけましょうよ。注を加えたら21になるのかな。じゃ、ちょっと玉突きみたいなものになるわけか。21にはなるわけですね。21番に注をつけてください。注の内容についてはお任せいただけますか。一応事務局で妥当なところをつけてもらうけれども、それを改めて図る機会がないもので、それについてはご一任いただくということでもよろしく願いいたします。

どうぞ。

【石井委員】 たびたびお騒がせなんですけど、19ページの8の生物多様性、これはやっぱり難しいので、「地球上に多様な生きものが存在し、それらが支えあってバランスを保っている状態」ではないんですよね。そこまで言い切っているわけじゃなくて、強いて言うなら「地球上の生物界のさまざまなレベルの多様性」というのが生物多様性の意味だと思うんです。「地球上の生物界」の「界」は世界の界を書くんですけど、「生物界のさまざまなレベルの多様性」。その具体的な中身がそこに書いてあるとおりで、「遺伝子」だの「種」だの「生態系の多様性」なのであって、バランスを保っている状態まで踏み込んでいないということです。いろんなことが賑やかに存在しているというような状態を指しているんです。ちょっとこれは言い過ぎているかなと。

【池田部会長】 このところは前に何か生物多様性条約の何条かを持ってきたらいいとか言っていたんだけど、ここに書いてあるのはどこから引用してきたというか、持ってきた用語になるわけですか。ここに今出ている用語は。

【事務局（小林補佐）】 生物多様性の条約の言葉を最初は持ってきたんですけど、それでも少し解説が要るような、さらに解説の解説というわけにもいきませんので、ちょっと事務局で検討しましてこのような表現にさせていただいたと。

【池田部会長】 そしたら今、専門の立場から石井先生が何かおっしゃったでしょう。もう1回ちょっと悪いけどおっしゃってください。

【石井委員】 「地球上の生物界の様々なレベルの多様性」。そこで言い切っちゃったらどうですか。

【池田部会長】 様々な、ですか。

【石井委員】 「レベルの多様性。」、終わりという感じ。条約のほうは「変異性をいうものとし」とか何か書いてあって、何のこっちゃわかんないんですね、確かに。石井流にかみ砕くと今みたいなことなんかと。

【池田部会長】 「それらが支えあってバランスを保っている状態」というのは要らん

ということですか。

【石井委員】 言い過ぎという感じがあるんです。

【池田部会長】 言い過ぎか。

【石井委員】 だから、「地球上」だけ活かして、あとは全部先ほどのやつに置きかえて。

【池田部会長】 そしたら、「地球上の生物界の様々なレベルの多様性」というのがその内容だということ。だれでも多様性というは一々説明せんでもわかるでしょうな。それじゃ、そのところを専門の立場から、石井先生はそこで意見を出されたので、それをここではよしとして直していただくことにしたいと思いますけど、よろしいですか。

【石井委員】 ついでに一番最後の「3つの段階」というのもあわせてレベルにしておいていただけますか。

【池田部会長】 「3つのレベルがある」と。そうですね。よし、じゃ、これはそういうふうに直しましょう。それじゃ、これで全体を見てきたわけですけれども、改めて全体でまた後で気がついたというようなところがあればご発言いただきたいと思いますけども、委員の皆様のご協力を得て内容をきちんと精査できたと思います。この内容でまとめるといってよろしいでしょうか。

そしたら、6回にわたりましていろいろとご意見いただき、ご協力いただいて環境基本条例に基づく環境総合計画についてという報告書がまとめられましたので、どうもありがとうございました。これをもって本審議会に報告をさせていただきたいと思います。

直しについて再確認していただく機会はありませんけども、私と部会長代理の水野先生でちゃんと直していただいたかどうかを確認いたしますので、お任せいただきたいと思いますけど、よろしいですか。

ありがとうございます。

そしたら一応本日、ここでまとめることを終えることができましたので、司会をまた事務局にお返ししたいと思います。

どうもありがとうございました。

【司会（田中総括主査）】 どうもありがとうございました。

本日、いろいろご議論をいただきまして、いただきましたご意見につきましては、先ほどございましたように部会長ともご相談させていただきながら訂正をさせていただいて、後日また委員の皆様にご確認していただくということで、またお送りさせていただきたいと考えております。

また、5月14日金曜日に予定されております第40回大阪府環境審議会で部会長から部会の検討結果を報告いただく予定にさせていただきます。

それから、本日の資料も含めまして、これまでの過去5回の資料を机の上に置かせていただいておりますけれども、お持ち帰りいただいても結構でございますし、もしお荷物になるようでしたら、後ほどお申し付けいただきましたら、後日郵送等でお届けさせていただきますこととさせていただきたいと思っております。

最後になりましたけれども、環境政策監の大住から一言ごあいさつを申し上げます。

【大住環境政策監】 どうも、環境政策監の大住でございます。

本日も、前5回と並びまして長時間にわたりまして熱心にご議論いただきました。ありがとうございます。本日ももちまして当総合計画部会は終了となりますけれども、今年の8月から6回にわたりまして半年以上にわたって熱心なご議論を頂戴いたしました。本日、部会報告としてまとめていただきました。ほんとうにありがとうございます。

池田部会長には環境というほんとうに幅の広い、またはかなり専門的な部分のある分野を取りまとめていただきまして、心からお礼を申し上げます。また、環境の各専門分野や経済界、NPO、市町村、それぞれの立場でさまざまな角度から貴重なご意見を頂戴いたしました。特に、大橋委員には今回初めて公募という形でご参加をいただきまして、積極的なご意見を頂戴いたしましたこと、委員の皆様にはこの場をおかりいたしまして、心から御礼を申し上げます。

本日、おまとめいただきました部会報告(案)、この案を基本に本年度末に環境総合計画を新たに策定する予定としております。「持続可能な経済社会システムの構築」、「地域発の取組みの推進」、「府民が主役」と、こういう3つの視点に基づきましてあらゆる主体が相互に協力をして取り組みを進めていけるような、そういった計画にしたいと考えております。都市化が進み、人口が集中している大阪から、環境と経済を両立させた持続可能な発展を先導し、環境・エネルギー産業が集積している大阪・関西のポテンシャルを活かした都市圏の環境施策の戦略を示していきたいと考えております。

今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、簡単ではございますけれども、閉会のあいさつをさせていただきます。

ほんとうに長い間、ありがとうございました。

【司会(田中総括主査)】 それでは、これもちまして環境総合計画部会を終了させていただきます。ありがとうございました。

(午前11時39分 閉会)

了